

- [分類] 普及技術  
 [成果名] いちごのアザミウマ類防除にディアナ SC が有効である  
 [要約] いちごのアザミウマ類防除にディアナ SC の 2,500 倍液を散布する。  
 [担当] 野菜花き試験場環境部、南信農業試験場栽培部、農業技術課  
 [部会] 病虫部会

### 1 背景・ねらい

いちごのアザミウマ類の被害は、主要な産地で増加傾向にあり、本害虫の防除の重要性が増している。そこで、いちごのアザミウマ類に対する防除試験を実施したところ、ディアナ SC の実用性が明らかになったため、普及技術として公表する。

### 2 成果の内容・特徴

(1) いちごのアザミウマ類防除に、ディアナ SC の 2,500 倍液を散布する。

#### 農薬登録内容

ディアナ SC

[一般名および成分含有量] スピネトラム 11.7% (IRAC コード<sup>注</sup>): 5)

[毒性] 人畜毒性: 毒物、劇物には該当しない。 [魚毒性] この登録に係る使用方法では該当がない。

[対象作物に対する適用登録状況 (平成 28 年 2 月 15 日現在 JPP-NET 確認)]

| 作物名 | 適用害虫名                 | 希釈<br>倍数                 | 使用<br>方法 | 使用<br>時期       | 本剤の使<br>用回数 | 散布液量                    | スピネトラム<br>を含む農薬の<br>総使用回数 |
|-----|-----------------------|--------------------------|----------|----------------|-------------|-------------------------|---------------------------|
| いちご | アザミウマ類<br>ハスモンヨト<br>ウ | 2,500<br>～<br>5,000<br>倍 | 散布       | 収穫<br>前日<br>まで | 2 回以内       | 100～300<br>リットル<br>/10a | 2 回以内                     |

注) IRAC コードとは IRAC (殺虫剤抵抗性対策委員会) が定める殺虫剤の作用機構による分類で、同じコードは同一系統を表す。詳細は農薬工業会のホームページ (<http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>) を参照する。

### 3 利用上の留意点

- (1) 本剤はスピノシン系薬剤で、害虫の神経系に作用することにより、速やかに食害抑制効果を示す。
- (2) 蚕に対して影響があるため、桑葉にかからないよう注意する。
- (3) ミツバチに対して影響があるため、受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼する場合は、散布後 3 日以上経過して後に実施する。
- (4) 薬剤抵抗性発達を回避するため、作用性の異なる薬剤をローテーション使用する。

4 対象範囲 県内のいちご栽培地域 約 79ha

### 5 具体的データ

- (1) 平成 18 年に南信農業試験場場内ハウスにおいてミカンキイロアザミウマに対する防除効果試験を実施した。ディアナ SC の 2,500 倍液散布は、無処理に比較して高い防除効果が認められた。被害は認められなかった (表 1)。

表1 いちごのミカンキイロアザミウマに対するディアナ SC の防除効果 (平成 18 年、南信農業試験場)

| 供試薬剤   | 希釈<br>倍数 | 処理前日 (6月1日)  |    |     | 処理3日後 (6月5日) |    |     | 処理7日後 (6月9日) |    |    | 処理13日後 (6月15日) |    |    | 薬害  |    |
|--------|----------|--------------|----|-----|--------------|----|-----|--------------|----|----|----------------|----|----|-----|----|
|        |          | 成虫           | 幼虫 | 計   | 成虫           | 幼虫 | 計   | 成虫           | 幼虫 | 計  | 成虫             | 幼虫 | 計  |     |    |
| ディアナSC | 2,500    | 30花当<br>たり虫数 | 24 | 144 | 168          | 12 | 4   | 16           | 4  | 0  | 4              | 0  | 0  | 0   | なし |
|        |          | 補正密度指数       |    |     |              |    |     | 5.6          |    |    | 2.7            |    |    | 0   |    |
| 無処理    | —        | 30花当<br>たり虫数 | 4  | 112 | 116          | 12 | 184 | 196          | 40 | 60 | 100            | 54 | 42 | 96  |    |
|        |          | 補正密度指数       |    |     |              |    |     | 100          |    |    | 100            |    |    | 100 |    |

耕種概要：南信農業試験場、場内エフクリーンハウス。品種：「章姫」、定植：平成 17 年 9 月 27 日、栽植距離：畝幅 135cm×株間 20cm。2 条千鳥植え。施肥・一般管理は慣行。区制・面積：1 区 3 m<sup>2</sup>、3 反復。発生状況：中発生。

処理方法：6 月 2 日に背負い式動力噴霧器を用いて、所定濃度の薬液を 300 リットル/10a 散布 (展着剤 S-ハッテン 10,000 倍加用)。調査方法：処理前日および 3、7、13 日後に各区 10 花について実体顕微鏡下で解体しながら幼虫・成虫数を調査した。合わせて、薬害の有無を肉眼観察した。

補正密度指数 = (処理区散布後密度×無処理区散布前密度) / (処理区散布前密度×無処理区散布後密度) × 100

(2) 平成 26 年に下伊那郡大鹿村現地ほ場においてアザミウマ類 (ヒラズハナアザミウマ優占) に対する防除効果試験を実施した。ディアナ SC の 2,500 倍液散布は、無処理に比較して防除効果が認められた。薬害は認められなかった (表 2)。

表2 いちごのアザミウマ類に対するディアナ SC の防除効果 (平成 26 年、野菜花き試験場、下伊那農業改良普及センター)

| 供試薬剤   | 希釈<br>倍数 | 処理直前 (5月30日) |    |    | 処理3日後 (6月2日) |    |    | 処理7日後 (6月6日) |    |    | 処理13日後 (6月12日) |    |    | 薬害   |    |
|--------|----------|--------------|----|----|--------------|----|----|--------------|----|----|----------------|----|----|------|----|
|        |          | 幼虫           | 成虫 | 計  | 幼虫           | 成虫 | 計  | 幼虫           | 成虫 | 計  | 幼虫             | 成虫 | 計  |      |    |
| ディアナSC | 2,500    | 60花当<br>たり虫数 | 0  | 24 | 24           | 0  | 8  | 8            | 0  | 6  | 6              | 0  | 17 | 17   | なし |
|        |          | 補正密度指数       |    |    |              |    |    | 39.6         |    |    | 17.0           |    |    | 20.4 |    |
| 無処理    | —        | 60花当<br>たり虫数 | 0  | 19 | 19           | 0  | 16 | 16           | 0  | 28 | 28             | 0  | 66 | 66   |    |
|        |          | 補正密度指数       |    |    |              |    |    | 100          |    |    | 100            |    |    | 100  |    |

耕種概要：下伊那郡大鹿村現地ビニールハウス。品種：「サマープリンセス」、定植：平成 26 年 3 月 19~24 日、栽植距離：畝幅 110cm×株間 25cm、条間 15cm 千鳥植え。施肥・一般管理は慣行。区制・面積：1 区 12 m<sup>2</sup>、2 反復。発生状況：中発生。

処理方法：5 月 30 日に背負い式動力噴霧器を用いて、所定濃度の薬液を 300 リットル/10a 散布 (展着剤ハイテンパワー 10,000 倍加用)。調査方法：処理直前および 3、7、13 日後に各区 30 花について幼虫・成虫数を見取り (息を吹きかけて這いだしたアザミウマ類を数える) 調査した。合わせて、薬害の有無を肉眼観察した。

### 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

新農薬の効果試験、平成 18 年度 (2006 年度)、民間受託

野菜・花きの病害虫に関する素材開発研究、平成 26 年度 (2014 年度)、県単素材開発